

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

14

新しい世界との出会い、
アニメ&特撮の世界



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日(金)から29日(日)の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

おやしマンガ同人誌

つれづれ草

マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄
(著者少年ジャンプと共同連載「男のつれづれ草」の作者の父)

日時：10月20日(金)～10月29日(日)
午前9時より午後9時まで(最終日は午後5時まで)

会場：森下文化センター1F展示ロビー
お問合せ：森下文化センター
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





14、新しい世界との出会い、 アニメ&特撮の世界

子どものアニメを

大人のアニメに変えた若者たち

「ふしぎな仲間たち」の借金返済のために、西日暮里に部屋を借り、高砂の印刷屋まで毎日仕事をもらいに通っていたころ、私にとって考えていなかった新しい世界の入口を見つけていることができる、新しい出会いがあったのです。

月刊OUT(みのり書房刊)で「宇宙戦艦ヤマト」というアニメ作品の特集記事を企画制作し、アニメファンから爆発的な支持を得て、その後のアニメ

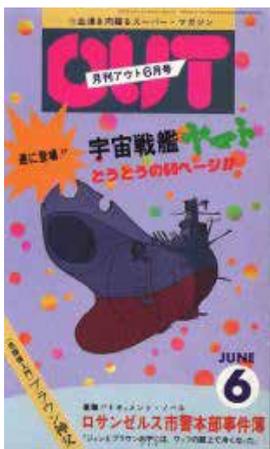
メブームのきっかけを作った、ある大学の学生○
○研究会のメンバーが、西日暮里の仕事場に突然訪ねてきました。

月刊OUTの「宇宙戦艦ヤマト」特集で、大きな実績を作った彼らは、次の企画として、アニメ、SF、マンガに特化したグラフィック情報誌『ランデヴー』を月刊OUTの増刊という形で創刊しようとしていたのです。

私にそのデザインを担当して欲しいという依頼でした。そしてもうひとつ、月刊OUTの12月号で『超人ロック』特集をやりたいので、その企画

編集デザインを手伝って欲しいとのことでした。

それまで、虫プロのアニメは見ていましたが、特撮は特に見たことは無く、どちらもあり興味はありませんでした。しかし、学生の若者達が、新しいアニメ文化を創ろうという強い熱意を感じ、私がやってきたマンガの「ふしきな仲間たち」と同じ志の様な物を感じ、一緒に何かやりたいという気持ちになったのでした。



月刊OUT 1977年6月号
みのり書房刊



月刊OUT 1977年12月号
みのり書房刊



月刊OUT増刊号『ランデヴー』
みのり書房刊

グラフィ誌のデザインには欠かせない「トレスコープ」という機材を世界堂から購入し、本格的にデザインの仕事依頼に応える準備をしました。マンガでは、月刊OUTの中で新つれづれ草でも寄稿してくれている「M・I」さんと合作で読切作品を二回発表しています。

また、情報誌『ランデヴー』で聖悠紀さんに「超人ロック」を連載していただきました。

スタジオオズのこと

ふしぎな仲間たちで作った、印刷屋の借金の返済も終わったころ、月刊OUTなどの企画編集で活躍しているメンバーの一部が大学を卒業するの
で、将来法人化する予定で「事務所」を作りたい、
私にデザイナーとして一緒にやらないかと声を掛けてくれました。

私は西日暮里の仕事をたたんで、神楽坂の奥にある「白銀町」のマンションを、スタジオオズのメンバーと私とマンガ家のあさのりじ先生の3者で出資して共同事務所を作りました。

スタジオオズの子ども向き情報誌やアニメ記事のデザインの仕事や、小学館の雑誌てれびくんで「ガッチャマンII」のマンガを連載し、同じ部屋で

中学二年の時にはじめてお会いしたマンガ家の、あさのりじ先生が手作りおもちゃの単行本の仕事をされているという、私にはとても幸せな時間が一年ほど続きました。

「月刊OUT」や『ランデヴー』の仕事は、それまでマンガしか見えていなかった私にとつて、デザイン企画編集まで仕事として引き受ける様になるきっかけになりました。

この時期に結婚し、婿入りして妻の性の山下を名乗り、デザイナーとしては山下幸雄名義で仕事をされる様になりました。

この後、私の仕事がどうなっていくか、この時、私自身想像できていませんでした。

文・新つれづれ草第7号掲載「つれづれインタビューマンガびと」より抜粋加筆